川柳マガジンクラブ東京句会　8月

平成20年8月10日（日）　駒込学園にて

出席者18名

伊藤三十六、井手ゆう子、村田倫也、白勢朔太郎、水野絵扇、若山かん菜、左道　正、渋川渓舟、加藤品子、菊池順風、棚瀬くんじ、渡辺まもる、秋山和子、高田以呂波、丸山芳夫、横山きのこ、植竹団扇、松橋帆波

欠席投句3名

山口千枝子、石田きみ、浦川一平

※句評会、二人選共に全作品のコメントを収録できず、一部となっていることをお詫びいたします。（帆波）

自由吟　句評会

熱帯魚だけが元気な熱帯夜　帆波

作者　リフレインというのは面白いのだが、誰かが作ったというイメージを払拭するのが難しい。そういう点を検証してみたかった。

老衰というあっぱれな終わり方　三十六

そういえば最近老衰という言葉を見なくなった。どうせ死ぬならこのようにありたいと思う。渓舟

あっぱれという表現が天晴れ。順風

亡くなる寸前まで口も足腰も達者でいたいなと思う。以呂波

作者　某元総理が亡くなる前の日まで新聞を読んでいたということを聞いて、印象が深かった。三十六

ボタン二つ外してみるかお洒落して　朔太郎

男か女か、どのような服装かを考えた。まず、女性のブラウスが頭に浮かんだ。背広ではボタンを二つ外しても堂という事はない。艶っぽくていい川柳だと思います。三十六

ボタンに限らず、ポケットのハンカチの形、ネクタイなど、変わった事をしようというお洒落だと思う。くんじ

作者　男性コメンテーターがワイシャツをラフに着ているのを見てそういうお洒落もあるのだなと思った。

何時か死ぬもうそれ以上考えぬ　倫也

家のどこかに書いておきたい句。和子

作者「人間は死ぬということを知っている、しかし自分だけは死なないと思っている厄介な生き物である」というある哲学者の言葉からいろいろと考えた。

蒟蒻の畑でデートするメタボ　団扇

コンニャクは幾ら食べても太らないというのでそれがメタボがデートするのにいいという意味なのか、判らなかった。倫也

作者　麦畑を連想して欲しかった作品。

そう言えば近頃紅もつけてない　千枝子

倹しい母を思い浮かべた。そういえば妻もかなとふとよぎった。渓舟

忘れないでお化粧して欲しいと思う。くんじ

忙しいのか、時間がないのか、そんな自分をふと見つけた切ない句だと思う。倫也

はてここはどこだ電車で目が覚める　正

実感句として面白い。絵扇

作者　酔って電車に乗るとこういう事がある。

模倣犯多すぎ主役奪われる　かん菜

秋葉原の事件などを見ても動機が安易な感じの事件があるので、面白い作品だと感じた。順風

くり返される残酷な事件を「主役が奪われる」という軽い表現で取り上げた点が興味深い。ゆう子

「元祖忘れられ」と比較してみたい。団扇

作者　ワイドショーの主役の意味で主役という言葉を使った。

素潜りはアルキメデスに逆らって　ゆう子

川柳に人名を使って上手くまとめてあり感心した。朔太郎

発想、切り口が面白い。正

浮力に逆らって潜るわけで、痩せている人が潜るのではないところに面白さがある。団扇

作者　浮力に逆らう素潜りは大変だなというイメージから。「浮く」という課題での句。

追っかけのファンに予定を確かめる　芳夫

追っかけのファンは妙に詳しい情報を持っているので面白いと思う。追っかけとファンは同じ意味だと思うが。かん菜

作者　テレビで毒蝮三太夫が明日の予定をファンに聞いていた場面から着想。元は「追っかけに僕の予定を聞いてみる」としたのだが、追っかけだけでは通じないかなと、このようにした。

触れた手が男の地熱記憶する　きのこ

触れられて悪い気がしなかったというイメージ。記憶するというところがいい。三十六

作者　わざわざ手を握ったのではなくて、たまたま触れた手に温かさを感じたイメージ。

棲む魔物手繰り寄せてはメダル獲る　順風

オリンピックには魔物が棲むという。その魔物を手繰り寄せられる人だけがメダルを手にできる。

作者　オリンピックは強いだけではメダルが取れないという。運や体調、執着心、それ以外の魔物を自分に味方させることが必要だと思う。下五を検討してみたい。

鳥の巣に怖いカラスがいなきゃいい　くんじ

時事吟としてみた場合いい句だと思うが、自由吟としては分かりにくい。朔太郎

時事吟としていいと思う。品子

作者　時事吟です。産卵期のカラスは巣に近付くと攻撃的になる。それと北京五輪のスタジアムを重ね合わせた。

熱帯夜一寸寝不足明烏　以呂波

「明烏」を「明烏もの」と連想されるとわからなくな

る。
作者　熱帯夜だとカラスの鳴き声も疲れて聞こえる。そこからの連想。

パイプ役して友情の和をつなぐ　きみ
平易な表現だが温かみのあるいい句だと思います。朔太郎
パイプ役のところ別の言葉がないかなと探してみたい。　渓舟

神代から困った時の米頼み　品子
慣用表現をもじって、最近の世相を現している。かん菜
作者　米作りをしていて、こんなに効率のいい食べ物はないなと実感している。

彼氏争奪共に振られる　絵扇
共に振られるというところに滑稽さがでていていいと思う。以呂波
作者　実際の体験を基に十四字詩にまとめてみた。

猿山のボスが一番寂しそう　一平
寂しそうなボスに遊ぼうよと声をかけてあげる、そんな句を作ってみたいと思う。きのこ
平凡な表現だが伝わってくるものがあっていいと思う。一方で各自がそれぞれ想像できるものを生み出しているのでいい作品だと思う。以呂波

古傷を風に晒して強くなる　渓舟
私は風に晒すほど勇気がないので作者は強い人だなと思った。きのこ
古傷を隠さないでむしろ武器にして前へ前へ進むという印象。元気のいい句だと思う。まもる
作者　脛にも心にも傷を沢山持っているという懺悔です。

震度7トイレで五秒前の予知　まもる
地震予知の記事を思い出して面白かった。正
7、5秒、トイレ、予知、どこにこの句の大事な部分があるのかがわからない。団扇
作者　震度七は大地震の極みという意味。五秒は学術的な意味ではなく字数で決めました、トイレは一番慌てるだろうという場所。

ピピーピピー添乗員が焦ってる　和子
添乗員さんのバックオーライの笛のイメージが良く浮かぶ　きのこ
作者　「笛」という課題での句。皆さんにご意見を聞きたくて出しました。

課題吟「真っ青」二人選

「真っ青」高田以呂波選
「佳作」
画布の青空かと問えば海と言う　品子
真っ青な海の色吸う藍浴衣　ゆう子
群青の海に眠っている戦史　渓舟
真っ青な空に蜘蛛の巣観覧車　きのこ
宿題の絵は真っ青に空と海　まもる
雲の上うえは真っ青下はゴミくんじ
エレベーター巨漢ばかりと乗り合わせ　かん菜
裏帳簿まで税務署に抑えられ　きみ
お財布も錠もバックに見当たらず　和子
何なりとお食べなさいと医者が言う　倫也
「秀句」
握り締め黙って耐えた乱気流　倫也
振り込んでからうちの子はニューヨーク　帆波
代々を継ぐ藍甕の藍が冴え　きみ
「特選」
真っ青な海に火種の島が浮く　渓舟

「真っ青」村田倫也選
「佳作」
八月の遠慮会釈のないブルー　団扇
通帳がナイヨナイヨと叫ぶ姑　千枝子
真っ青な顔で人事部から戻り　正
真っ青な親が見たくて買うナイフ　かん菜
真っ青に限るトイレに流す水　団扇
真っ青な海に火種の島が浮く　渓舟
宿題の絵は真っ青に空と海　まもる
スタンドにジャパンブルーの気が揃い　渓舟
科白出て来ない学芸会の夢　芳夫

群青の海に眠っている戦史　　渓舟

「秀句」

お財布も錠もバックに見当たらず　　和子

原爆忌真っ青な天憎らしい　　朔太郎

台風のツメ跡空のむごい青　　芳夫

「特選」

突然になにが不満か妻が消え　　千枝子

選考後、選者のお二方に幾つかご質問をさせていただきました。

披講前に以呂波さんから

「表現としてこういう作品はどうだろうか？」

真っ青な親が見たくて買うナイフ

通り魔のガイシャの中に友の顔

「(けり)という止めはどうなのか？」

紺青の空に玉音響きけり

「助詞止め」

自爆テロアラーの神も真っ青に

震度七生簀の鯰真っ青に

「中八なので・・」

ほうれん草搾った汁から翡翠麺

以上六句について問題を提起されました。

帆波

まず、おお二方共に取っておられない

自爆テロアラーの神も真っ青に

について。

倫也

神様が真っ青になるかどうか。想像なのだろうが選べませんでした。また助詞止め「に」にも違和感を覚えました。

以呂波

助詞止めは使ってはいけないとまでは思わないのだが、座りが悪いと感じる。逆に皆さんのお考えを聞きたい。

帆波

流行り廃りもあるが、助詞止めは活字の場合何かあるような効果をもたらすが、音で披講する場合伝えきれない場合がありますね。

紺青の空に玉音響きけり

はどうでしょうか。

団扇

こういう表現をわざと使う場合があります。音、活字どちらの場合でもユーモアとして使う場合があります。

倫也

文語表現は川柳ではダメなのでしょうか？

帆波

絶対ダメとはいえないが、例えばは行を文語表記した場合選者はどのように披講すればいいのだろう？句会の場で選考する側に立った時どのように扱うのかという問題は残るのでは。

倫也

「けり」は私の作品だが、句に重みを加味したかったのと、五音に収めたかったのがあって、この表記を選びました。

帆波

ほうれん草搾った汁から翡翠麺

はどうでしょうか。

以呂波

おなじように中八も絶対いけないとはいえないのでは？

帆波

中八でも中八でないように読めるのであれば選出できるし、そうでない場合は選べない。また、何が何でも中八にしなければならないという場面はそうないのでは？

この作品は課題からの距離も離れているのでは。

くんじ

翡翠麺なんて仰々しい名前だなと思う。

帆波

次に

真っ青な親が見たくて買うナイフ

通り魔のガイシャの中に友の顔

について

以呂波

こういう表現もいいのかなという印象。「ガイシャ」という表現も気になる。

倫也

カタカナの「ガイシャ」という表現は気になりました。

団扇

刑事や報道が使う言葉だし、親族や知り合いが使うのは不自然では。

倫也

真っ青な親が見たくて買うナイフ

は私は選びました。時事でもあるし誰でもこういう気持ち、内面を持っているのではないかと、現代社会の一面を表現していると捕らえました。

帆波

どちらも選んでおられない作品から

予報士が恐縮してる青い空

についていかがでしょうか

倫也

これは天気予報が当らなかったという事だけですね。

以呂波

普通は雨になって怒られるのでは？

帆波

なるほど、確かに場面としては少なそうですね。

次は

遺産分け子供七人名乗り出る
はいかがですか
倫也
遺産分けの句は沢山あるが、何故七人なのか、実の子なら仕方ないが、それでは名乗り出ると合わない。
以呂波
この作品から「真っ青」がイメージできなかった。
倫也
取り分が減るということなのでしょうか？判りません。
帆波
次は
ヒロシマの数百倍の核を持つ
はいかがですか
倫也
今の時代の核兵器はヒロシマの時代の核とは比較にならない。そういう意味では。
以呂波
恐怖心は感じるのだが、真っ青まで繋がらない。
倫也
自分で作句していて感じたのだが、人生の中で本当に真っ青になる瞬間がどのくらいあるのだろうかと思う。そこで無理をして真っ青になる瞬間の句を作ってしまうのではないか。
帆波
難解という点では次の句
飛び降りて黒い鞄を忘れてる
はいかがですか。
倫也
状況がわからない。よほどの重要書類でも入っていたのだろうか。
以呂波
今判りました、電車から飛び降りて忘れたということでしょうか。
帆波
没句をみて感じたのは、自分が真っ青になる状況を扱ったものと、海の色、空の色を詠んだものが多い。
母認知息子ニートになるという
エスカレーター逆回転に悲鳴上げ
など、倫也さんがお話になられたように無理にはめ込んだ作品がいくつか見られますね。
帆波
真っ青に限るトイレに流す水
はいかがですか。
以呂波
洗剤会社のコマーシャルのような気がしたので。
帆波
真っ青な顔で人事部から戻り
はいかがですか
以呂波
はじめは選んでいたのだが、真っ青な顔だけではないのでは？と思って取りませんでした。
倫也
左遷か何かで絶望的なイメージを受けましたが。
帆波
ご自分の作品について聞きたいこと、その他作品に付いて質問があればお願いします
朔太郎
以呂波さんが取り上げられた作品のうち一つがまだ出てないのでそれについて。
真っ青という課題では「海」「空」「人の表情」に限られてくるのではないだろうかと思い、三句のうち二句はユーモア的に扱いました。
「神様」や「鯰」が真っ青になるわけではないが、より広く課題を捕らえるというのも必要ではないか。
倫也
「真っ青」を詠み込まないで表現できるかどうか、それがベストかもしれないが難しいと感じた。
団扇
「真っ青」と「青」は違う。ならば「青」ではなく「真っ青」を詠まなければならないのだろうか？朔太郎さんの句も「青くなる」なら助詞止めではないが、その辺りがどうなのだろう。
帆波
「青い」という課題で「真っ青」までいけるのかどうか。
「青くなり」で「真っ青」は表現できていたのでは？
芳夫
「青くなる」でも「真っ青」は表現できると思う、感情としての真っ青は、青くなるでも表現できるのでは。
倫也
「うろたえる」などでも表現できるのでは
帆波
真っ青な親が見たくて買うナイフ
は「青くなる」として比較してみたい。
団扇
真っ青な親が見たくて買うナイフ
ですが、以呂波さんはどうかなという後、言葉を続けられなかったが、「嫌な句」と表現されてもよかったのでは。この句のいいところは「嫌なこと」をわざと表現する、扱うという勇気でもあるのかと思います。
芳夫
空も海も我がもの沖に出て泳ぐ
という句を出したのですが、これでは「真っ青」にならないのでしょうか？
帆波
お二人にお聞きしますが、実は没句を見ましたところ「空」「海」を詠んだ作品がとても多かったのですね。いかがですか。
倫也
ただ情景を詠んだ句は外させていただきました。
青い中に思いがこもっていないと選べなかった。

以呂波
大半が「空」「海」を詠んだ作品でしたので、その代表として特選の句を選ばせていただきました。
団扇
八月の遠慮会釈の無いブルー
は、真っ青をなんとか真っ青といわずに作りたかった。
遠慮会釈の無いで強調したかった。
帆波
どうもありがとうございました。

まとめ　松橋帆波